

# 沖縄・高江に現れた退役米兵

「戦争とつながるものはすべて拒否する」

（敬称略）

ルポライター  
檜田秀樹

●かしだ・ひでき 1959年北海道生まれ。著書に『自爆営業』（ポプラ社）など。『“悪夢の超特急”リニア中央新幹線』（旬報社）で第58回日本ジャーナリスト賞受賞。

九月一日、沖縄県東村高江<sup>ひがしせん</sup>――。

建設予定の米軍のヘリパッド（オスプレイの飛行訓練用離着陸帯）を建設させまいと、高江の住民を中心とした約七十人が座り込みで反対の意思表示をし、警察や機動隊と対峙していた。

座り込む人たちの中に、ひととき目立つ黄色いTシャツと黄色いジャケットに身を包んだ七人の外国人がいた。Tシャツにプリントされた文字は「Veterans For Peace」（平和のための退役軍人会。以下、VFP）。

七人は座り込み、英語で「自分たちのしていることを見つめ直してほしい」と声を上げていた。

VFPは一九八五年に設立された非暴力の反戦団体だ（本部＝アメリカ・ミズーリ州）。各国で高まる核装備

レースや、アメリカの米中への侵攻を食い止めたいと、十人の退役軍人の呼びかけで活動が始まった。

現在、支部は、アメリカ各州、ベトナム、イギリス、アイルランド、そして今年一月に設立された琉球沖縄支部を合わせると百三十以上にのぼり、約五千人の会員がいる。活動目的は、ずばり戦争の廃止、他国への軍事介入禁止、戦争の実態を一般市民に知らせること。戦争の実態とは、その戦争が起きた真相の究明や、戦費の内実などを含んでいる。

設立以来三十年間、南米やベトナム、そしてアフリカ各地に六十回におよぶメンバーの派遣を実施し、平和活動を展開してきた。

そのVFPが、昨年、沖縄で起きている辺野古

への新基地建設問題と、高江でのヘリパッド建設問題は住民への人権侵害だとして行動を起こした。

## 千人の機動隊が投入された高江

辺野古の新基地建設問題はある程度報道されている。しかし高江のヘリパッド建設計画については、沖縄県内を除いてはほとんど報道されてこなかった。VFPは高江になぜ注目したのか？

沖縄本島北部に位置する東村は、世界有数の亜熱帯林「やんばるの森」にある。四千種超の野生動物が生息し、未だ原始の姿を残すその森は、この九月十五日、「やんばる国立公園」に指定された。対象区域は、陸が一万三六二二ヘクタール、海域三六七〇ヘクタールと広大だ。

やんばるの森には、同時に七八〇〇ヘクタールもの米軍北部訓練場があり、すでに二十二のヘリパッドがある。

だが、一九九五年に発生した米兵による少女暴行事件を機に、日米両政府は、「沖縄に関する特別行動委員会（SACO）」を立ち上げ、翌年、普天間飛行場や



ヘリパッド反対の横断幕を掲げるVFPのメンバー